

埼玉アーツシアター通信

松本白鸚
藤田貴大
近藤良平
藤田真央



SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.85

2020.2-3



Tribute to 蜷川幸雄

12

松本白鸚

悲しみを希望に
苦しみを勇気に



まつもと・はくおう

1946年『助六』の外部売伴で2代目松本金太郎を名乗り初舞台。1949年六代目市川染五郎、1981年九代目松本幸四郎を襲名。2018年に父の最後の名跡である松本白鸚を二代目として襲名。70歳を越した今も、歌舞伎、現代劇、ミュージカルと幅広く活躍している。

取材・文 ●
市川安紀（演劇ライター）

「シェイクスピアだからやるんじゃない。いい芝居だからやるんだと、2人で意見が合ったんですよ」

1974年、蜷川さんの大劇場初演出作品『ロミオとジュリエット』に主演したのは、当時市川染五郎を名乗っていた松本白鸚さん。稽古初日から台本を持たず、代わりに野の花を手にして臨んだその姿に、蜷川さんは後年、「本物のプロは違うと衝撃を受けた」と度々振り返っていた。当の白鸚さんは「歌舞伎の稽古は3日間。1カ月の稽古で台本を持つことは考えられなかったんです」とさりと語る。

「蜷川さんが“自由にやって”と仰るので、草花を持ってやった記憶はありますね。稽古場に灰皿は飛んでいましたけど（笑）、楽しく、いい思い出です。蜷川さんは俳優出身でしたから、俳優が気持ちよく芝居が出来るようにしてくださっていた。裏では言葉に尽くせぬご苦労があったはずですが、俳優の資質を引き出し、“何のためにこの仕事をしているのか”を喚起させてくださる数少ない演出家でした」

22歳でミュージカル『王様と私』に主演、その後『ラ・マンチャの男』では単身ブロードウェイデビューを果たすなど、歌舞伎・新劇・ミュージカルといった既存の枠組みを軽やかに飛び越えて活躍を続ける白鸚さんにとって、大切なのは「いい芝居かそうでないか」のみ。そんな価値観を共有する蜷川さんとは、以後も『リア王』『オイディプス王』『オセ



『ロミオとジュリエット』写真右から松本白鸚（当時染五郎）、中野良子 写真提供 ● 東宝演劇部

ロー』と仕事を共にした。

「苦しみを勇気に、悲しみを希望に変えて生きるのが我々人間であり、俳優の仕事です。そのことを蜷川さんは芝居を通して教えてくれた。だから僕も77歳の今日まで何とか頑張っているんです」

白鸚さんの祖父も父も、三代にわたって『オセロー』を演じているという進取の気風を持つ高麗屋だが、白鸚さんは「人生で大事なのは“どんな決断をしたか”だと思う」と力を込める。
「『王様と私』も『ロミオ〜』もブロードウェイも、来た話を断ればそこで終わり。決断した以上はチャレンジではなく、プロとして全うしないと。我々はアーティストではなく、芸を身につけた職人的な“アルチザン”でなければ本物じゃないと思うんです。その意味で蜷川さんもアルチザンだったと思います。“いい芝居は観るけれどつまらない芝居は観ない”というお客様が出て来たのも蜷川さんからでしょう。蜷川さんのお考えを継ぐ若い方たちが活躍してくれるといいですね」

次代を見据えつつ、『ラ・マンチャの男』は上演1300回を突破、28年ぶりに時代物の大役『盛綱陣屋』の盛綱をつとめるなど、役者として円熟味を増す当代。「意地でも長生きしてやる」と笑う頼もしさに、蜷川さんもエールを送っているに違いない。



彩の国さいたま寄席 四季彩亭の高座ができるまで



CONTENTS

4 PLAY > 彩の国シェイクスピア・シリーズ第36弾
『ジョン王』

6 PLAY > 『かがみ まど とびら』

8 PLAY > 『レオの小さなトランク』

9 KABUKI > 松竹大歌舞伎

10 DANCE > コンドルス埼玉公演2020新作
『Golden Slumbers—ゴールデン・スランバー—』

12 DANCE > ナタリア・オシボワ／メリル・タンカード
『Two Feet』
フランソワ・シェニヨール&ニノ・レーネ
『不確かなロマンス—もう一人のオーランドー—』

14 MUSIC > 彩の国さいたま芸術劇場
2020年度音楽公演ラインナップ紹介

16 MUSIC > ピアノ・エトワールシリーズ Vol.39
藤田真央

18 REPORT > 吉川市演劇プロジェクト第3回公演『らしょうものおに』

19 REVIEW

20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ

23 INFORMATION

24 COLUMN > 林家彦いちの“一歩外へ”

編集 ● 川添史子、榎原律子 表紙画 ● 波多野光 デザイン ● GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Feb. 2020 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2020年1月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第36弾

『ジョン王』

松岡和子 (翻訳)

Interview

言葉の力を駆使した“説得劇”

全37戯曲の完全上演を目指す彩の国シェイクスピア・シリーズ、ラスト前の第36弾は『ジョン王』。
“英国史上最も悪評の高い王”とされる、
ジョンの治世を描いた歴史劇について、翻訳の松岡和子氏に聞く。

取材・文 ● 市川安紀 (演劇ライター)

STORY

イングランド王ジョン(横田栄司)のもとへ、先王リチャード1世の私生児だと名乗る男が現れる。ジョンの母エリナー皇太后はその私生児フィリップ・ザ・バスタード(小栗旬)を親族と認め従えることを指示。そこへフランス王フィリップ2世(吉田鋼太郎)からの使者が。領地の引渡しと、イングランド王位を正当な王位継承者であるアーサーに譲り、領地を引き渡すよう、要求しにきたのだ。それを拒んだジョン王は、私生児を従えてフランスと戦うために挙兵し……。

『ヘンリー八世』の開幕から間髪入れずに上演する『ジョン王』。筋金入りのシェイクスピア・マニアならいざ知らず、かなりの芝居好きでも正直ピンと来ないタイトルだろう。日本人にはなじみの薄い英国史劇で、13世紀と時代も古く(日本で言えば鎌倉時代だ)、タイトルロールの王様は史実でもすこぶる評判が悪いらしい。シリーズ完結が迫るラスト前にしてはちょっと地味なんじゃ……?なんて思い込みは、つねづね「『ジョン王』は面白い!」と主張する松岡氏に華麗に覆された。

「とにかく“やれば面白い”作品なんです。辻褄が合わないところもあるけれど、人物一人ひとりが面白く描かれているんです。大きな特徴は、すべての人間が目の前の人間を説得しようとする。身分の上下も男女も関係なく、みんな言葉を尽くして相手を動かそうとする。まさに言葉の矢玉が飛び交うかのようです」

言葉の応酬がどれだけ多彩かという点、松岡氏が自著で〈挑発・挑戦、非難・攻撃、哀訴・嘆願、要求、説得、忠告、示唆・教唆、命令、鼓舞・激励、(中略) 政治的な駆け引き、交渉〉(ちくま文庫『「もの」で読む入門シェイクスピア』より)と列挙する通り。



吉田鋼太郎

小栗 旬

横田栄司

チケット発売日 一般 4.11(土) メンバーズ 4.4(土)

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第36弾
『ジョン王』

6.8(月)～28(日)〈全24回〉 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

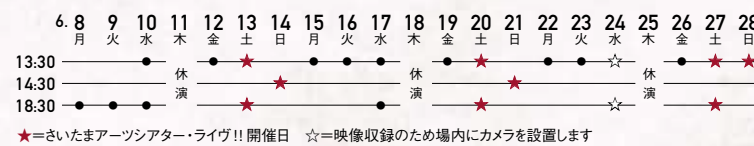
[作]W.シェイクスピア [翻訳]松岡和子

[演出]吉田鋼太郎(彩の国シェイクスピア・シリーズ芸術監督)

[出演]小栗 旬、横田栄司、吉田鋼太郎 ほか

チケット(税込) 一般 S席10,000円 A席8,000円 B席6,000円 U-25*(B席対象)2,000円
メンバーズ S席9,300円 A席7,400円 B席5,500円

※メンバーズプレオーダー(抽選)は3/17(火)～24(火)受付予定。プレオーダーの詳細は3月上旬にお送りします。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



“言葉・言葉・言葉”で紡がれるシェイクスピア劇の中でも、とりわけ対話の醍醐味を堪能できる作品と言えそうだ。

濃厚キャラクター揃い

では、その言葉を駆使するのはどんな人物たちなのか。イングランドの王位継承権と領地を巡って対立するジョン王(横田栄司)とフランス王(吉田鋼太郎)を軸に、両国の争いに翻弄されるジョン王の兄の未亡人とその息子、ジョン王の激烈な母親など、男女ともに濃厚で血圧の高そうな面々が次々と現れる。今回久々のシリーズ登場となる小栗旬が扮するのは ジョン王の有名な兄リチャード獅子心王の私生児フィリップ。常識や偽善を嫌う皮肉屋で、弁も立つが戦にも強い。何だかんだ言ってイングランド思いの男でもある。

「『ジョン王』が上演される時にまず注目されるのは、“バスタード(私生児)”を演じるのは誰か”です。セリフの分量は役の重要性とも関係しますが、ジョン王より私生児の方がセリフの行数が多いんですよ。鋼太郎さん自身が以前演じたことのある私生児役を、今回は小栗君に任せる、ということでしょうね。本当に楽しみです」

一方で、タイトルロールのジョン王は母親に頭が上がりず、みじめな最期を遂げるという、かなり残念な描かれようだ。

「フランス王と対等に闘っている辺りは政治力もあるけれど、落目になると情けなさが際立ってきます。英国の歴史の中でも、ジョンという名の王は彼しかいないんですよ。リチャードは六世、ヘンリーは八世までいるのに。今回のシリーズでは『ヘンリー八世』の次に『ジョン王』を上演するという順番も面白いですね。ローマ法王とその権力に抗ったという共通点がありまじし。だからなのか、書かれた当時は人気作だったようです」

腐敗した世界の対極にあるのは?

またシェイクスピア史劇ではおなじみの継承権争いに、いたいけな子どもが巻き込まれる点も見逃せない。ジョン王の兄の息子で正統な王位継承権を持つ少年アーサーは、母コンスタンスの奔走もむなく、やがて命を狙われるようになる。

「子どもをどれだけ描けるかで作者の力量が計れると、常々私は思っています。シェイクスピア劇には『冬物語』のマミリアス、『マクベス』のマクダフの息子など強く印

観劇準備にいかが?
映画「冬のライオン」

1968年公開、アンソニー・ハーヴェイ監督の映画。イギリス国王ヘンリー2世(ピーター・オートール)と王妃エリナー(キャサリン・ヘップバーン)、そしてその息子たちであるリチャード1世(アンソニー・ホプキンス)、ジェフリー(ジョン・キャッスル)らによる王位継承争いの物語。ジェフリーの妻コンスタンスと息子アーサー、エリナーは皇太后として『ジョン王』にも登場。ジョンはヘンリー2世の末息子にあたる。ちなみに原作はジェームズ・ゴルドマンの戯曲で、映画版の脚本も手がけている。



象に残る子どもが登場しますが、中でも『ジョン王』のアーサーは、世界の腐敗を映し出す反射板のような、大きな役割を担っています。主人公が辿る上昇と下降の大事なポイントに子どもがいるという点では、『リチャード三世』にも通じますね。アーサーは賢く魅力的な少年で、身の危険が迫ると知力を尽くして必死に相手を説得しようとする。観客の共感を一身に引き寄せるように描かれているんです」

そのアーサー少年の命運が終盤に向けて物語の鍵を握っていくのだが、彼を取り巻く大人たちの義憤や打算も見え隠れし、敵と味方が目まぐるしく入れ替わるジェットコースター的展開から目が離せない。「宮廷内での権謀術数渦巻く英国史劇とはまた違って、中世らしい“力と力”のぶつかり合いが魅力でもある作品です。加えてキャラクターの面白さ、説得セリフの多様さを、鋼太郎さんの演出がより引き出してくれるんじゃないでしょうか」

芝居は生き物。演出と俳優の力が相まって、これまで幾度となく目の当たりにしてきた“戯曲の知名度を超える芝居の面白さ”を、今回も味わうことができそうだ。



まだ誰も名付けてない表現 『かがみ まど とびら』

藤田 貴大

Interview

昨年日本各地で再演され好評を博した、子どもから大人まで楽しめる演劇『めにみえない みみにしたい』。同作に続く待望の新作がこの5月に登場。前作での手応え、次作の構想を聞く。

取材・文 ● 熊井 玲 Photo ● 小林由恵

藤田 貴大
Takahiro Fujita

1985年生まれ。マームとジブシー主宰、劇作家、演出家。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。2011年に3連作『かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きつと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。『cocoon』（今日マチ子原作）の再演（2015年）で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。今もっとも注目を集める若手演劇人の一人。2月、村上春樹の小説『ねじまき鳥クロニクル』舞台化に脚本・演出で参加（演出・美術・振付：インバル・ピント）。

り、作品が崩壊するんじゃないかって回もあったけど（笑）、僕はそれもけっこう楽しかったというか。この企画では“できるだけ全てに丁寧に関わっていく”ということを考えているんですが、ツアーを通して「作品に大人向けも子ども向けもないな」と思ったし、逆に大人が観る演目だけやっていたら麻痺していく部分があるだろうなってことに気付きました。例えば1990年代から2000年代までの小劇場では、舞台と客席の間に境界線があったと思うんです。でも「ライブでやってるのにな」というもどかしさがマームとジブシーには

ずっとあって、それで小さなギャラリーやライブハウスでやってみたり、ライブであることを意識した音使いにしてみたりと試行錯誤を重ねてきました。その一つの在り方が、「めみみ」ではっきり分かったというか。小さな子どもが観に来ると、その上演が良いか悪いか、如実にわかるんです。役者も普段以上によく客席を見ているので、「子どもたちの集中力が途切れたのは、子どもだから飽きたんじゃないかって、例えば自分たちがあそこでもう1秒早く動き出していたらよかったんじゃないか」というような気付きがあった。2カ月のツアー中、役者たちと、観客や俳優と作品を媒介にして

キャッチボールできたことは、すごく良い経験だったと思います。

——確かに、再演では客席と舞台の呼びがより深まって、作品や空間をみんなでシェアしているという印象が強まりました。その第2弾となる新作が、今年5月に上演されます。

「もう1作つくろう」ということは、すんなり決まりました。まだ試してみたいこともあったし、いろいろ可能性を秘めていると感じていたの。例えば『めみみ』は2部構成でしたが、子どもたちの様子を見ているともう少しタイトにしても良かったかなと感じたので、次作は「かがみ」「まど」「とびら」の3部構成にしようと思っています。鏡、窓、扉は『CITY』（2019年）でもモチーフになっていたのですが、最近僕はこの3つで大体のことが成立すると考えていて。例えば子どもの時、僕は鏡の向こうの世界があって、いつか鏡の中の自分が違



チケット発売日 一般 3.7(土) メンバーズ 2.29(土)

『かがみ まど とびら』

【作・演出】藤田貴大
【音楽】原田郁子 【衣装】suzuki takayuki
【出演】伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

【さいたま公演】

5.3(日・祝)～6(水・休)
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

5.3 4 5 6
日・祝 月・祝 火・祝 水・休
11:30 ● ● ● ●
15:00 ● ● ● ●

チケット(税込) 全席自由
大人(19歳以上)2,500円、子ども(2歳以上)1,000円

【吉川公演】

5.9(土)・10(日)
吉川市民交流センターおあしす 多目的ホール

5.9 10
土 日
11:30 ● ●
15:00 ● ●

チケット(税込) 全席自由
大人(19歳以上)2,000円、子ども(2歳以上)500円

主催:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
共催:吉川市教育委員会

※開場は開演の20分前 ※上演時間は約60分(予定)
※推奨年齢4歳以上。
※2歳未満の膝上鑑賞は無料(保護者1名につき、お子さま1名まで)。

【関連企画「地図のワークショップ」】

4.12(日)13:00～15:00

会場:彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場1

対象:埼玉県内在住在学の小学生

定員:10名 料金:500円

※要申込。3月31日(火)応募締切。詳しくは財団ホームページをご覧ください。

う表情をするんじゃないかと怖いことを考えていたんですけど（笑）、そういう意味で鏡は、こちらと向こうの世界の境界線と言える。同様に、窓や扉もフレームであり、境界線ですね。また『めみみ』の時は絵本を書いているような感じだったんですけど、今回は仕掛け絵本のイメージです。ページの一部が四角く切り取られてて、その四角いフレームの中に、鏡に映った自分や自分を見ているお母さん、出ていく人や入って来る人など、いろいろなものが映し出されていく感じです。フレーミング自体は、マームとジブシーで上演した『あ、ストレンジャー』（2011年初演）や『てんとてん*』（2013年初演）でも使ってはいますが、今回はそれを大人向けの渋いモチーフとしてではなく、かつ説教くさくなく、子どもにもずっと感じ取れるものとして使いたいと思っています。

——『めみみ』との連作性は考えていますか？

あちらは森が舞台でしたが、今回は、鏡や窓や扉を人工的な素材にし、都市的・人工的なイメージにしたいと思っています。ただ『めみみ』のキャスト4人（伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子）と、音楽の原田郁子さん、衣装のsuzuki takayukiとはまた一緒にやりたいです。『めみみ』を観た子どもたちに、「同じ座組みで、こんなにも違うタイプの作品ができるんだ!」と思ってもらえれば、子どもたちにとってもきっと大きな体験になると思うので。また僕たちも子どもだからって特に意識せず、最先端のモチーフを使ってクリエーションしているので、このプロジェクトも普段の作品の延長上にあると言うか。子どもたちがこの企画を“何か面白いこと”と思って観に来てくれるように、僕自身もまだ何も名付けられていないことを、一からやっているような気がしています。

※正式タイトルは「てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなつた、世界。および、光について。」





愉快でシュール、
才の感動的な
冒険物語

カナダ・モントリオールを拠点に、身体と映像の織りなす独創的なエンターテインメントを携え、NY、ベルリン、メルボルン、香港、モスクワ、ロンドンなど、世界各地の都市でツアーを続けるカンパニー「Y2Dプロダクションズ」による公演。

主人公は“レオ”。何もないガランとした部屋で、ぐるぐると動き回ってみたり、トランクの中身を探ったり、壁にチョークで絵を描いたり、時間を持て余している様子。けれども横の壁が天井になり、床が壁面になり、身体表現によってだんだんと小さい部屋が無重力空間のように見えて来る。警戒から不安へ、好奇心へ、そして遊び心へ。気持ちの変化とシンクロするように、小さな部屋は徐々に……。観客は時が経つにつれ、彼のいる世界がどこか違うものになっていくことに気づくだろう。

演劇、ダンス、音楽、アクロバット、アートサーカスなど、異なるジャンルを組み合わせたフィジカルシアターは、数々の賞を受賞。セリフなしで展開する冒険物語は、遊び心溢れる演出によってダイナミックな世界に変身！ マジカルでユーモラス、シンプルな部屋で綴られる「レオの旅」は、小さな子どもたちの想像力を大いに刺激するだろう。驚異的な動き、観客の身体感覚が変化するような不思議な世界を親子で体験しよう。

チケット発売日 一般 3.7(土) メンバーズ 2.29(土)

『レオの小さなトランク』

5.6(水・休) 14:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[カンパニー] Y2Dプロダクションズ (カナダ)

チケット(税込) 全席指定

大人3,000円 子ども(4歳以上18歳以下)1,500円

セット券(大人1枚+子ども1枚)4,000円

※上演時間60分 ※対象年齢4歳以上

※3歳以下のお子様の入場はご遠慮ください。

※セット券のお申込みはSAFチケットセンター窓口・電話受付のみ
0570-064-939 (休館日を除く10:00～19:00)



子ども、文化。それが私たちの未来
All our futures: children and culture

2020 国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル 参加公演

『レオの小さなトランク』

松竹大歌舞伎

これぞ“歌舞伎”
親子の情愛を描く人気狂言

令和2年度(公社)全国公立文化施設協会主催 東コース



『連獅子』中村芝翫 ©松竹

チケット発売日 一般 3.14(土) メンバーズ 3.7(土)

令和2年度(公社)全国公立文化施設協会主催 東コース

松竹大歌舞伎

5.14(木) 昼の部13:00/夜の部17:00

熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール

[演目]『義経千本桜 川連法眼館の場』、『連獅子』

[出演]中村芝翫、中村松江、坂東新悟、中村橋之助、中村福之助、中村歌之助、中村梅花 ほか

チケット(税込) 一般 S席7,000円 A席4,500円 B席3,000円

U-25*(A席対象)1,500円/メンバーズ S席6,300円 A席4,100円

※開場は各30分前 ※上演時間:2時間30分予定(休憩時間を含む)

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



2016年10月の歌舞伎座公演を皮切りに八代目中村芝翫、四代目中村橋之助、三代目中村福之助、四代目中村歌之助を親子で襲名し、1年半にわたり行われた芝翫親子の襲名披露も平成30年度(公社)全国公立文化施設協会主催 中央コース 松竹大歌舞伎で締めくくられた。親子4人揃っての出演は昨年ハワイでの『2019 ホノルル歌舞伎』以来。品格ある演技の中村松江、年々評価が高まる若手女方の坂東新悟、味わいあるベテラン中村梅花といった魅力的な座組みで、名作狂言が上演される。

今回の演目は2本。歌舞伎の三大名作の一つ『義経千本桜』は、源平合戦後、数奇な運命を辿る源義経を軸に描いた人気狂言だ。中でも「川連法眼館の場」は、通称「四の切」と呼ばれ、見どころの多い段として知られている。舞台は義経がかくまわれている吉野山、僧兵の頭領・川連法眼の館。そこへ奥州から佐藤忠信が来訪する。義経は伏見稲荷の鳥居前で忠信に託した愛妾・静御前と、形見として渡した初音の鼓の行方を尋ねるが、忠信はそのことを全く知らない。そこへ静と“もう一人の忠信”が到着。不審に思った義経が詮議をすると、これが実は、鼓の皮になった狐の子であった。親を思う子の情に感じ入った義経

は、その狐に鼓を与え……狐忠信がその正体を顕す場で喋る独特なセリフ廻し「狐詞(きつねことば)」、「毛縫い」と呼ばれる狐衣裳への鮮やかな早替りが眼目。親子の情愛や、狐と人間との慈愛を描いた傑作をとくご堪能あれ。

続く『連獅子』は能の『石橋』をもとに、前半で親子の情愛を、後半では勇猛な獅子の毛振りを見せる長唄舞踊。舞台は文殊菩薩が住むといわれる霊地清涼山。その麓の石橋に、狂言師の親子が現れる。狂言師たちは石橋のいわれや、子を千尋の谷へ蹴落とし、谷底より駆け上ってくる子だけを育てるという故事に因んだ踊りを見せていく。やがて法華僧と浄土僧がやって来て、お互いの宗派の違いから口論になるが、一陣の風に怯え退散。そこへ親獅子と仔獅子の精が現れ、勇壮に毛を振りながら、華麗な獅子の狂いを見せて舞い納める。通常は親獅子1人と仔獅子1人で踊る舞踊だが、今回は仔獅子が2人となり、3人で踊るダイナミックな演出で贈る。

成駒屋親子の結束力、確かな芸で立ち上がる「親子の情愛」を描く傑作舞台をお見逃しなく！

今号では、2020年度に彩の国さいたま芸術劇場で開催されるダンス公演を一挙にご紹介する。トップバッターは、毎年恒例のコンドルズ！昨年を振り返りつつ、クリエイションの秘密を聞く。

長年の滞在制作みたいな埼玉公演

コンドルズ埼玉公演2020新作 『Golden Slumbers—ゴールデン・スランバー—』

コンドルズ主宰・振付家

近藤良平

Interview

取材・文 ● 尾上そら (ライター) Photo ● 片山貴博

——年頭恒例、彩の国さいたま芸術劇場でのコンドルズ新作に関する取材ですが、まだ未知数の部分が多い状況ですね？

正直言って今（※2019年末取材）は、タイトルも何もない状態だね（笑）。埼玉での公演は次で14回目。ここ最近は回数や西暦を読み込んだタイトルをつけていたけれど、2019年は元号が変わったので、気分一新の意味も込めて『Like a Virgin』に。2020年も五輪など色々あるけれど、どこに寄せていくか絶賛考え中です。

——と、思っていたので、まずは近藤さんが超絶忙しかったであろうこの一年を振り返るところからお話を伺おうかと。

確かに、この一年はコンドルズ以外にも幅広く色々やらせてもらいました。主だったものだけでも、1月と5月は笠井勲さんが構成・振付した『高丘親王航海記』（世田谷パブリックシアター）と『いのちの海の声が聴こえる』（国立劇場）にそれぞれダンサーとして出演し、普段と全く違う踊り方で身体がギクシャクしたし（笑）、2月は彩の国さいたま芸術劇場で「日本昔ばなしのダンス」新作（『かさじぞう』『てんぐのかくれみの』）、3月は可見市文化創造センターで市民50人超が参加し生演奏で踊る『オーケストラで踊ろう！』を振付・演出しました。「東京2020オリンピック・パ



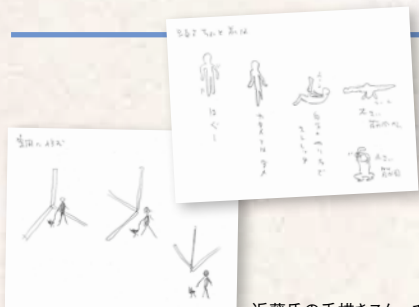
コンドルズ
CONDORS

男性のみで結成されたダンスカンパニー。舞台衣装は学ラン。ダンス、生演奏、人形劇、映像、コトを大胆に展開するジャンル横断的な手法で、独自の世界観溢れる舞台を創り出す。国内はもとより、これまでに世界約30カ国で公演。ダンスだけでなく演劇、TV、ラジオ、映画への出演・振付も多数。2016年に結成20周年を迎え、NHKホールで2日間の単独公演を行った。日本の舞台芸術界で異彩を放つダンス・グループ。

「オリンピック」の公認文化オリンピアードの「東京キャラバン」では、福島県いわき市の郷土芸能や地元アーティストと協働したし、11月に開館した豊島区の東京建物Brillia HALLのこけら落としでは、区民100人のダンスとコンドルズの本公演を合体させた『Bridges to Babylon』、そして12月は埼玉に戻って（近藤良平と埼玉県障害者ダンスチームの）「ハンドルズ」公演。頑張ってるよねえ（笑）。

——驚異的な創作ペースだと思います。頭の中だけで、アイデアのすみ分けなどできているのですか？

頭の中が散らかっていることが多いけれど、思いついたことはすぐに言葉と絵の両方でメモを取るようにしてるんですよ。手近な紙やノートなどにササッと書いて、見直して使えると思うものはコレ（と黄色の厚い表紙がついたスケッチブックを出す）に写し直しておく。身体や動き、人と人との関係性、世の中の仕組みの不思議など自分に引っ掛かって来ることは何でも記録した、このスケッチブックが創作の源かな。



近藤氏の手描きスケッチ

チケット発売日 一般 2.22(土) メンバース 2.15(土)

コンドルズ埼玉公演2020新作
『Golden Slumbers—ゴールデン・スランバー—』
5.30(土)14:00/19:00、31(日)15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
[構成・映像・振付]近藤良平 [出演]コンドルズ
チケット(税込) 一般 前売 S席5,000円 A席3,500円
U-25* 前売 S席3,000円 A席2,000円
メンバース 前売 S席4,500円 A席3,200円

※当日券は各席種とも+500円
※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見えない場合がございます。
※5/30(土)14:00公演を除き、未就学児の入場はご遠慮ください。(有料託児サービスあり。要事前予約。)
※U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

●5.30(土)14:00の回限定 0歳児から入場可！
未就学児(0歳～6歳) S席1,500円
※S席のみ。枚数制限あり。
※未就学児の入場には保護者の同伴が必須。
※膝上鑑賞無料(ただし3歳まで)。
※4歳以上、また3歳以下の場合も座席を指定する場合はチケットが必要です。
[未就学児チケット取扱い・お問合せ]
SAFチケットセンター窓口・電話受付のみ 0570-064-939 (休館日を除く10:00～19:00)



近藤良平
Ryohei Kondo

ベルー、チリ、アルゼンチン育ち。「コンドルズ」主宰。NHK『サラリーマンNEO』、『からだであそぼ』などに振付出演。立教大学などで非常勤講師も務める。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回横浜文化賞受賞。2019年NHK大河ドラマ『いだてん』ダンス指導。愛犬家。



——作品のコンセプトと振付、両方の原石が描かれているのですね。

新作は長年の“滞在制作”の成果

創作のための準備で言えばもう一つ、彩の国さいたま芸術劇場は僕にとって発表や公演だけではなく「学びの場」でもあるんです。プロデューサーの佐藤まいみさんには埼玉以前、振付家としてまだ駆け出しのころからお世話になっていますが、佐藤さんが吟味して日本に招聘した海外の振付家やダンスカンパニーの作品を観ることが、自分にとっては本当に大きな刺激であり糧なんですよ。

——確かに、毎年トップレベルのダンスカンパニーが埼玉で公演しています。

フィリップ・ドゥクフレやローザス、ピナ・バウシュなど挙げ始めたらキリがないほど多くの「出会い」を、佐藤さんは僕に作ってくれた。最近はネット上に無数のダンス動画が上げられているし、コンクールなどでは審査員として膨大な数の若い世代の振付作品に向き合うこともある。何が良くて何が確かなものか混乱しそうなった時、これまで出会った尊敬できる大先達の

ことを思い出して、自分の立ち位置を確認できるんですよね。

しかも埼玉では、それら最高峰の創作を見せた上で「コンドルズも同様に、埼玉で良い作品をつくってね」と佐藤さんが強烈に発破をかけ、背中を押してくれる。そんな環境で生まれる新作だからこそ、その年のコンドルズの活動のベースになるんだと思うな。

——世界各地を旅する近藤さんとコンドルズにとって、埼玉は創作する上での「ホーム」なんですね。

そう、ここは僕らにとって稽古から本番まで、回を重ねたからこそその発見や挑戦ができる劇場なんだ。初登場から長年、定期的にこの土地と劇場に滞在制作しているようなものだからね。

——その積み重ねの先にある新作について、片鱗だけでも伺えますでしょうか。

うーん……2020年で、干支はねずみだよな。そういえば僕、ずっと犬派だったんだけど19年に猫を2匹飼いはじめて、間近に見てると犬とは対照的なことが多くてやはり面白い。コンドルズには大の猫派・藤田善宏がいるけれど、そのことと干支を絡めて『トムとジェリー』（1940年代にアメリカで制作されたアニメ。猫のトムとねずみのジェリーを軸にした騒動を描く）のようなスラップスティックなシーンや、追いつ追われつの状況をネタにしたら面白いかも。って完全な思いつきだけど（笑）、絶対に面白いものにはしますので楽しみに待っていてください！



Photo © Régis Lansac

ナタリア・オシポワ／メルル・タンカード 『Two Feet』

9.10(木)～13(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
[演出・振付]メルル・タンカード [出演]ナタリア・オシポワ

2020年度、海外招聘ダンス公演をご紹介します！

前ページで紹介したコンドルズに加え、
2020年度は海外からの個性的な招聘公演が決定！
今年の彩の国さいたま芸術劇場のダンス公演も、要注目だ。

文 ● 高橋彩子 (演劇・舞踊ライター)

オシポワが伝説のバレリーナを踊る メルル・タンカード振付『Two Feet』

彩の国さいたま芸術劇場の2020年度の来日演目はどちらも、作品のテーマの向こうに踊り手の生き様が浮かび上がるような珠玉のソロ・ダンスだ。

かつてピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団のダンサーとして活躍していたオーストラリア人振付家メルル・タンカードの『Two Feet』は、伝説的なロシア人バレリーナ、オリガ・スベシフツェワのバレエ人生に、タンカード自身の経験も投影して作り上げたもの。1988年に発表され、日本公演も行われたが、今回は、英国ロイヤ

ル・バレエ団プリンシパルとして活躍するロシア人バレリーナ、ナタリア・オシポワのために2019年に生まれ変わった舞台が上演される。

スベシフツェワは20世紀初頭、バレエ・リュスやバリ・オペラ座などで活躍した美貌のバレリーナ。特に評判を取った演目が、恋人の裏切りを知って狂乱し、死して精霊ウィリとなる『ジゼル』だったが、スベシフツェワ本人も精神を病んで引退し、20年間にわたって精神病院に隔離されたため、因縁めく。その人生は1997年、ロシアの振付家ボリス・エイフマンによって『赤いジゼル』のタイトルでバレエ化されている。そのスベシフツェワがバレエ・リュスで踊った『カルナヴァル』のコロンビーヌにインスパイアされた場面

で始まる『Two Feet』では、スベシフツェワのさすらい姿や自分を痛めつけるようなバーレッスンのもようが、オシポワによって演じられ、さらにタンカードやオシポワのエピソードも挿まれる。理不尽な振付に翻弄されたり体重計と睨み合ったりする場面にはコミカルな味わいがあり、自身への批判を跳ね飛ばすように『バヤデル』『エスメラルダ』『ドン・キホーテ』の見せ場を勢いよく踊る場面は何とも爽快。そして、大きな見どころとなるのが『ジゼル』の場面だ。オシポワもまたこの役を当たり役としている。異なる二人のバレリーナの像が一つに集約されるクライマックスは見逃せない。

シェニョーが性の超越者となる 『不確かなロマンス—もう一人のオーランドー』

フランス人振付家で歌手でもあるフランソワ・シェニョーが、映像から音楽までボーダーレスに活動するアーティストのニノ・レーネとの共同演出(レーネは音楽デザインと音楽監督も担当)で贈る『不確かなロマンス—もう一人のオーランドー』は2017年初演。イギリスの作家ヴァージニア・ウルフが、幾つもの地を流転しながら男性から女性になり4世紀生き続ける主人公を描いた奇想天外な小説『オーランドー』に、スペインの多様な音楽を重ね合わせ、独自の世界を展開する作品だ。

開幕すると、舞台上にはバンドネオン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、パーカッション、パロックギターとテオルボの奏者4人。彼らの前に半身だけ鎧をつけて現れ、男装して戦地に赴く乙女を描いたロマンセ(物語詩)を、歌いながら踊り始めるシェニョー。かと思えば、スペインの小さな町アンギアーノに伝わる、短いスカートにコンパスのように尖った竹馬をつけた若者の伝統舞踊の衣装で登場し、大天使

ミカエルの両性具有性を官能的に詠ったスペインの詩人・劇作家ロルカの詩で歌い踊り、次に竹馬を脱いでトゥシューズで踊る。やがてフラメンコの女性舞踊手の姿になったシェニョーは、ロルカが収集したと言われる民謡《ラ・タララ》を歌いながら、性を超越したダンスを見せていく——。

つまり本作は、スペインの音楽に表された性の越境者たちのイメージが、シェニョー演じる“もう一人のオーランドー”に宿る作品だ。セファルディム*やジブシーなど流浪の民の音楽を扱った点はオーランドーの流転に、ロルカらの詩の使用はオーランドーが終生持ち続けた詩への愛に通じるかもしれない。スペインの伝統舞踊から現代舞踊まで様々な要素を取り入れながら、次第にシェニョー本人の魂そのものがむき出しになるような踊りは必見。と同時に、彼の歌にも注目したい。2013年に発表した初のソロ作品『Думи Мої (Dumy Moyi)』でも既に歌と踊りの両方をこなしていたシェニョー。筆者が観た昨年初演の『Symphonia Harmoniæ Cælestium Revelationum』では実に2時間半歌い続け、観客を魅了した。今作でも、カウンターテナーさながらのハイトーンボイスからバリトンばりの低音ボイスまで幅広い歌声を聴かせる。



ある種のダンスには、振付や意匠を超えて、踊り手そのものでしかないという瞬間がある。2作とも、そんな究極の瞬間に出会える舞台ではないだろうか。

※セファルディム：スペイン・ポルトガルといった南欧諸国、15世紀前後にトルコ、北アフリカなどに定住したユダヤ人

フランソワ・シェニョー&ニノ・レーネ 『不確かなロマンス —もう一人のオーランドー』

12.12(土)・13(日)
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
[出演]フランソワ・シェニョー ほか音楽家



Photo © Jose Caldeira

※詳細は決まり次第、財団広報誌、チラシ、SNS等でお知らせいたします。

話題の3人が登場！ ピアノ・エトワール・シリーズ

幅広いジャンルの魅力的な公演がならぶ2020年度。まずは、彩の国さいたま芸術劇場ならではのシリーズ「ピアノ・エトワール・シリーズ」だ。新進気鋭のピアニストが、彼らならではの意欲的なプログラムを披露する評判のシリーズは、2020年度も国際コンクールで話題となった3人が登場する。

5月は、2019年チャイコフスキー国際コンクール第2位の藤田真央。自然体から生まれるみずみずしい音楽と、並外れた大器ぶりが頼もしい彼のインタビューを16ページに掲載しているので、ぜひお読みいただきたい。

11月は、シリーズ初のフォルテピアノ奏者が登場する。2018年第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクールで第2位に輝いた川口成彦だ。ショパンが弾いていたピアノは当然ながら現代のピアノとは異なり、楽器が異なれば演奏スタイルも異なる。ショパン自身はどんな音・表現をイ

メージして自作を作曲し、演奏していたのか——作品の本当の姿をよみがえらせる川口の演奏に乞うご期待！

1月は、2018年浜松国際ピアノコンクール優勝のジャン・チャクムル。2019年は優勝ツアーで日本各地をめぐり多くのファンを獲得した彼が、待望の埼玉県初登場となる。彼の演奏は、作品がその場で生まれたかのような新鮮な喜びをもたらしてくれる。現在はプログラム未定だが、チャクムルらしい曲が並ぶはずなので、楽しみに待とう。

演奏&トークを平日11時から 新シリーズ「イレブン・クラシックス」

2020年度から平日午前11時開演の新シリーズ「イレブン・クラシックス」がスタート！埼玉県在住の音楽ジャーナリスト・音楽評論家、林田直樹のナビゲートと共に、上質な生演奏とトークで、音楽と演奏家をより身近に楽しむシリーズだ。

初回は、最難関として知られるミュンヘン国際音楽コンクールで2018年、ピアノ三重奏部門で日本人団体初の優勝に輝い

た葵トリオが登場。旬のアンサンブルの演奏はもちろん、アカデミー生としてベルリン・フィルでも演奏するヴァイオリン小川響子をはじめとするメンバーたちのトークも楽しみだ。

第2回は、バロックから現代まで幅広いレパートリーを誇るメゾソプラノ波多野睦美と、80歳を超えさらなる境地を聴かせる作曲家・ピアニスト高橋悠治。この2人ならではの世界観によるシューベルト《冬の旅》を聴けるのは嬉しいかぎり。心に染み入る温かい響きに耳を傾けたい。

さまざまなジャンルの 世界の名演奏家が登場

10月は、アメリカの現代音楽を切り拓いてきた弦楽四重奏団クロノス・カルテットが17年ぶりに来日。1973年結成以来、ジャンルを超えてミュージック・シーンの最先端を歩み続ける彼らが今回披露するのは、2018年サンダンス映画祭で初演したライブ・ドキュメンタリー『A Thousand Thoughts』。ドキュメンタリー映像が流れるなか舞台上で生演奏とナレー

ションを行う、クロノスならではの刺激的なライブだ。映像の内容は、彼らのこれまでのセンセーショナルな活動の記録や、フィリップ・グラス、スティーヴ・ライヒらのインタビューなど。ライブでしか味わえないクロノス体験を逃す手はない。

2020年はベートーヴェン生誕250年であり、世界的な古楽演奏団体バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 創立30周年の年。ということで11月、BCJはベートーヴェンの交響曲第5番「運命」と《ミサ曲ハ長調》を演奏する。バッハが亡くなってから20年後に生まれたベートーヴェンの音楽を鈴木雅明 & BCJがどのように表現するか。今年のベートーヴェン・イヤーで最も楽しみな公演のひとつだ。

3月は、スーパー・プレイヤーによる金管五重奏団ユニテッド・ユーロ・ブラス・クインテットがやってくる。ルツェルン祝祭管弦楽団の首席トランペット奏者ラインホルト・フリードリッヒの呼びかけで集まったアンサンブルで、トロンボーンには名奏者イアン・バウスフィールド (元ロンドン響／ウィーン・フィル首席奏者) も。天上の響きのような極上のサウンドと超絶テクニックをぜひ堪能してほしい。

3月はさらに、鬼才イーヴォ・ボゴレリッチも登場。1980年ショパン国際コンクールでの“事件”から40年、孤高の天才ピアニストの道を突き進むボゴレリッチ。どんな有名曲でも、彼が弾くと、作品が別

の顔を表し始める。衝撃の音楽体験を恐れるか楽しむかは貴方次第だ。

レクチャー・コンサート 《平均律》いよいよ第2巻へ

大塚直哉の演奏とトークで、バッハ《平均律クラヴィーア曲集》をポジティブ・オルガンとチェンバロで聴き比べる人気のレクチャー・コンサート「オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”」。2018～2019年度で第1巻全24曲が完結し、2020年度はいよいよ第2巻へ。さらにゲストを迎え、さまざまな面からバッハを読み解いていく。

7月のゲストは、バッハゆかりの地を数多く訪れるなど、バッハの人物像に詳しい音楽評論家・加藤浩子。“平均律”が生まれた時代背景やバッハの仕事・生活など、バッハの素顔に迫る。

バッハの音楽はダンスにもよく使われるが、2月のゲストは、ネザーランド・ダンス・シアターで活躍後、ダンサー・振付家として国内外で注目を集める小尻健太が登場。「フーガ」をテーマに、クリエイターの視点でバッハの音楽を語り踊る、ダンス・ファンも注目の回になりそう。

*

バラエティ豊かな2020年度の音楽公演。今後「埼玉アーツシアター通信」でそれぞれの公演について詳しく紹介していくので、どうぞお楽しみに！

彩の国さいたま芸術劇場

ピアノ・エトワール・シリーズ

- ◆5月30日(土)15:00
Vol.39 藤田真央 ピアノ・リサイタル
- ◆11月3日(火・祝)15:00
Vol.40 川口成彦 フォルテピアノ・リサイタル
- ◆2021年1月30日(土)15:00
Vol.41 ジャン・チャクムル ピアノ・リサイタル

イレブン・クラシックス

- 林田直樹(ナビゲート)
- ◆6月19日(金)11:00
Vol.1 葵トリオ
- ◆2021年1月13日(水)11:00
Vol.2 波多野睦美&高橋悠治

大塚直哉レクチャー・コンサート

- オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
- ◆7月5日(日)14:00
Vol.4 バッハの生きた時代と“平均律”
- ◆2021年2月14日(日)14:00
Vol.5 フーガの身体性

- ◆10月2日(金)19:30 大ホール
クロノス・カルテット
ライブ・ドキュメンタリー『A Thousand Thoughts』
- ◆11月29日(日)15:00
バッハ・コレギウム・ジャパン
ベートーヴェン「運命」とハ長調ミサ曲
- ◆2021年3月6日(土) 開演時間未定
ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット
- ◆2021年3月7日(日) 開演時間未定
イーヴォ・ボゴレリッチ ピアノ・リサイタル

光の庭プロムナード・コンサート

- 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1階)
- 劇場内のオープン・スペースで気軽に良質の音楽をお楽しみいただけるミニ・コンサート。ポジティブ・オルガン(移動可能な小型のパイプオルガン)と器楽・声楽とのアンサンブルをお届けします。 ※入場無料
- ◆第114回 4月18日(土)
大塚直哉(オルガン) & 永瀬拓輝(バロック・チェロ)
- ◆第115回 5月16日(土)ばらまつりスペシャル
廣江理枝(オルガン) & 松原勝也(ヴァイオリン)
- ◆第116回 6月20日(土)
和田純子(オルガン) & 庄司知史(オーボエ)
- ◆第117回 7月25日(土)夏休みスペシャル
森 亮子(オルガン) & 人見珠代(メゾソプラノ)
- ◆第118回 10月17日(土)
モニカ・メルツォーヴァ(オルガン・ソロ)
- ◆第119回 12月19日(土)トワイライト・スペシャル
堀切麻里子(オルガン) & 阿部まりこ(バロック・ヴァイオリン)
- ◆第120回 2021年1月23日(土)
渋谷久美(オルガン) & 藤岡泰子(フルート)
- ◆第121回 2021年3月13日(土)
近藤 岳(オルガン) ほか

※2020.1.現在。やむを得ぬ事情により、出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

次号では、埼玉会館の音楽公演ラインナップをご紹介します。

彩の国さいたま芸術劇場

2020年度音楽公演 ラインナップ紹介

文●榎原律子

時代はバロックから現代まで。そして音楽だけでなく、映像、ダンスも——多彩なラインナップでお贈りする、彩の国さいたま芸術劇場の2020年度音楽公演。好評のシリーズはもちろんのこと、新シリーズもスタート！604席の親密な空間で一期一会の演奏を味わう各公演をご紹介します。



藤田真央 Photo©EIICHI IKEDA



川口成彦 Photo©Taira Tairadate



ジャン・チャクムル



大塚直哉 Photo©E.Shinohara



加藤浩子

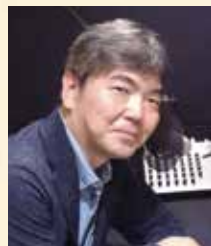


小尻健太

Photo©Carl Thorborg



クロノス・カルテット Photo©Jay Blakesberg



林田直樹



葵トリオ Photo©Nikolaj Lund



波多野睦美 Photo©河野俊之



高橋悠治 絵●柳生弦一郎



バッハ・コレギウム・ジャパン
指揮 鈴木雅明 Photo©Marco Borggreve



ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット



イーヴォ・ボゴレリッチ
Photo©Bernard Martinez ©Sony Music Entertainment

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.39

藤田真央

Mao Fujita

時代の寵児の作曲家たち 彼らの名作を彩の国で弾ける喜び

若手の中でもひとときわ輝く気鋭ピアニストが登場する「ピアノ・エトワール・シリーズ」。
2020年度の1回目に登場するのは、藤田真央。
2019年チャイコフスキー国際コンクール第2位に輝き、
瞬間に“時の人”となった、今最も多忙なピアニストだ。
彼は、埼玉県にゆかりのある音楽家で
2011年に当財団主催「夏休みオーケストラランド！」にも出演している。
5月の演奏会を前に、
コンクールの思い出、そして今回のプログラムについて語る。

取材・文 ● 上田弘子（音楽ジャーナリスト） Photo ● 田中亜紀

チャイコフスキー国際コンクールで モスクワの聴衆の拍手に感動

——コンクール全体を振り返って、まず思い出されるシーンは何ですか？

第1次予選のステージです。出番が夜の10時半頃と遅かったので、一番自信がなかったバッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》第20番の〈フーガ〉をずっと練習していました。暗譜が上手くいなくて、もう駄目だと思っていたところ、本番では今までで一番上手く行って、それから吹っ切れました。次のモーツァルトの《ピアノ・ソナタ第10番》は自分でも納得いく演奏で、すると割れんばかりの拍手とブラボー！ があり驚きました。でも耳の肥えたモスクワの聴衆からの拍手は本当に嬉しくて、特別な幸福感に浸りました。モスクワ音楽院のホールは本当に素晴らしい響きで、コンクールで弾きながらも酔いしれていて、モーツァルトの演奏法など得たことは多かったです。

第1次予選のあとロシアの複数の新聞に

Mao、Maoと自分のことが大きく出ていて、内容は分からないけれど名前はロシア語（キリル文字）でもMaoと書くので、急に注目されるようになって緊張しました。でもロシア人の出場者たちの緊張は尋常ではなく、彼らが背負っているものの重さをヒシヒシと感じました。

——本選のピアノ協奏曲でも拍手喝采でしたね。

休憩なしで2曲（チャイコフスキー第1番、ラフマニノフ第3番）はさすがに疲れました。ロシアのオーケストラとの共演は初めてでしたが、チャイコフスキーの有名な冒頭、ホルンの「パ、パ、パ、パー

ン」の音が、「ブァッ！ ブァッ！ ブァッ！ ブァーン！」と太い響きで、旋律は雄大に流れる。あれはロシア独特の響きで、ものすごく楽しかったです。

*

モスクワでお気に入りとなった日本食レストランの話や恩師のことなど、屈託のない笑顔と話しぶりに、天性の魅力を感じる。そして、たまに顔を出す次男坊のチャっかり感。藤田には2つ上に兄がおり、幼少期は二人揃って彩の国さいたま芸術劇場で開催された「彩の国・埼玉ピアノコンクール（2009年）」にも出場したことがある。

縁が深い埼玉県でのリサイタル 天才たちの音楽を聴いてほしい

——12歳のときには「夏休みオーケストラランド！」（埼玉会館）で東京交響楽団とプロコフィエフの《ピアノ協奏曲第3番》を演奏されましたね。

第1楽章だけでしたが、今のような緊張感はゼロ！ 聴きにきてくれた友達を会場で見つけて、弾く間際に衣装のまま会いに行ったりしていました（笑）。将来ピアニストに？ いやいや、あの頃はタクシーの運転手さんになりたいと思っていたんですよ。ドアが自動で開くのが面白くて、その

藤田真央（ピアノ）
Mao Fujita

2019年6月、チャイコフスキー国際コンクールで第2位を受賞。聴衆から熱狂的に支持され、ネット配信を通じて世界中に注目された。最後のガラ公演では、ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団と共演。喝采を浴びた。2017年には弱冠18歳で、第27回クララ・ハスكيل国際ピアノ・コンクールで優勝。2016年には、故中村紘子氏が最後に音楽監督を務めた浜松国際ピアノアカデミーコンクールで第1位に輝く。幼少のころから国内外での受賞を重ねると同時に、2013年に初めてのリサイタルを開催。以降、国内はもとより、各地でリサイタル、オーケストラとの共演を行なっている。CDはナクソス・ジャパンからリリース。現在、特別特待奨学生として東京音楽大学3年ピアノ演奏家コース・エクセレンスに在学し研鑽を積んでいる。



チケット発売日 一般 2.1（土） メンバーズ 販売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.39 藤田真央 ピアノ・リサイタル

5.30（土）15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

〔曲目〕モーツァルト：ピアノ・ソナタ第12番 ヘ長調 KV 332
シューマン：子供の情景 作品15
ショパン：ワルツ イ短調 作品34-2
ノクターン第18番 ホ長調 作品62-2
舟歌 嬰ヘ長調 作品60

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番 ヘ短調 作品57「熱情」

チケット（税込）一般 正面席3,600円 メンバーズ 正面席3,300円
バルコニー席2,600円／U-25*（バルコニー席対象）1,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

2020年度ピアノ・エトワール・シリーズ 3公演セット券販売中 詳細はP.22

開け閉めをやりたくて。

——タクシーの運転手さんではなく、ピアニストになってくださって良かったです。5月の「ピアノ・エトワール・シリーズ」が聴けますから。今回の選曲に関しては熟考されたとか。

モーツァルトとベートーヴェンだけで組もうかとも考えたのですが、シューマンの《子供の情景》も弾きたかったので、結果としてこのようになりました。モーツァルトの転調や展開は、当時としては非常に斬新。これは後年のワーグナーにも繋がるものです。シューマンの《子供の情景》は、“子供”と付けつつ深くて難しい。シューマンは子供の何かを具体的に表現したのではなくて、どこか回想のような趣です。回想といっても私はまだ若いので、“自分が年を取ったときに回想している姿”を想像するしかないのですが、何より各曲それぞれの性格が面白いので、動き回るところ、つぶやき、心が浄化されるような曲想などなど聴いていただきたいです。

ショパンはワルツ、ノクターン、舟歌それぞれの形式・様式を知っていただけたら

と。根底には古典派のスタイルが潜んでいるのですが、旋律や和声が素晴らしい展開を遂げている。シューマンとショパンは同じ年で、1つ下にはリスト。才能のぶつかり合いが相乗効果にもなり、名作の多いロマン派時代ですね。

最後のベートーヴェンの《熱情》。これは実に面白い構成なんです。最初の「ドーラファ」が変容しながら出続けます。「運命」のモチーフ、「タタタターン！」も出てきて、極端に言うと、それだけで成り立っているような。そういうベートーヴェンもまた天才です。響きの素晴らしい彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールで弾けること、今から本当に楽しみです。

*

留学も決まり、「今の夢はベルリンのフィルハーモニー・ホールで弾くこと。そしてベルリン・フィルと共演できたら最高です」とニコリ。そして「そう、また弾く機会をいただけたら……」と当ホール用の曲目も浮かんだ様子。計り知れない大型新人、藤田真央。風薫る5月、進化の響きが楽しみです。



吉川市演劇プロジェクト第3回公演 『らしょうもんのおに』観劇レビュー

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子

吉川市で開催している市民劇「吉川市演劇プロジェクト」は、公募で集まった市民たちが、数カ月の稽古を経て演劇に挑む企画。これまで2017年に初公演『Y市のフシギな住人たち』、2018年に『あゆみ』を上演し、昨年11月23日と24日には第3回公演が上演された。会場は吉川市民交流センターおしすの多目的ホールで、これまで同様、石内詠子が構成・演出を担当。彩の国さいたま芸術劇場の協力のもと、照明・音響・舞台監督・制作スタッフも参加した。出演は24歳から80歳までの14人の市民メンバー。今回は多様性溢れる様々な出演者たちによって一つの芝居を作り上げた。

今年の演目は、馬場のぼろの絵本を原作とした『らしょうもんのおに』。羅生門に住む、力は強いが穏やかな心を持った鬼が主人公で、温かくユーモラスなタッチの中に、人間への鋭い視点も込められた物語だ。ハーモニカを吹く少年、つ

むじ風で回る風ぐるま、立ち廻りもこなし(!)客席も自由に歩き回って演技する役者たち。劇中のセリフに、吉川の名物である「なまず」や「ねぎ」が出て来ると観客からは笑いが起こった。演劇の想像力や楽しさを目いっぱい盛り込んだ舞台は、弾むような躍動感。ピンクやグリーン、オレンジや紫などカラフルな色彩を配した衣裳や、パッチワークのような大きな布など、目にも楽しい絵作りも印象的だった。メンバーたちの表情は舞台に立つ喜びで生き活きとしていて輝いており、フィナーレで歌われた「離れている時でもわたしのこと、忘れないでいて……」(矢野顕子《ひとつだけ》)には、どこか切ない感動が広がった。

同プロジェクトとしては初めて“子どもたちに贈る演劇”として上演され、舞台前に設えられた桟敷席には小さな観客もいっぱい。夢中で舞台を見つめる表情が微笑ましかった。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン ピアノデュオ・リサイタル

11.17(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

息も音色もぴったりの兄弟デュオ。師匠ピリス譲りの珠玉のモーツァルトののち、シューベルト《幻想曲》では2番ピアノの弟アルトゥールのやや硬質な響きと、1番ピアノの兄ルーカスの温かな音色の絶妙なバランスが美しい。彼らのために作曲されたファジル・サイ《夜》では内部奏法も多用したスリリングな演奏に心躍る。ラヴェルの2曲で兄弟はパートを交代。《マ・メール・ロワ》はアルトゥールが奏でる高音のきらめきが物語の世界観を彩り、《ラ・ヴァルス》は互いを熟知した兄弟ならではの思いきった演奏で、ルーカスの渾身のグリッサンドで最高潮に。アンコール《シンフォニア40》はユニークな内容と超絶技巧に客席は大いに沸いた。



Photo © 横田敦史

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第41回 きりく・ハンドベルアンサンブル 12.6(金) 埼玉会館 大ホール

大小さまざまなハンドベルとチャイムがズラリと並ぶ舞台。それを1曲ごとに並び替え、たった9人(曲によってはさらに少人数)で演奏するきりくならではの技、輝かしい響きと繊細な表現を堪能した。特に見事だったのがショパン《ノクターン第2番》。細かな音が連なるメロディとその揺れはまるで1人の奏者が演奏しているようで、美しさにうっとり。モーツァルト《トルコ行進曲》はマレットで叩いたり、ベルの中のクラッパーを手で動かしたりもして、音が転がるような演奏を。《オー・ホーリー・ナイト》で神聖な気分になったあとは、アンコール《フェリス・ナヴィダ》。マラカスや太鼓なども使ってラテンの陽気なクリスマスの響きを楽しんだ。



Photo © 加藤英弘

PLAY

ゴールド・アーツ・クラブ ノゾエ征爾演劇ワークショップ2019《成果発表》 12.21(土)・22日(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

60歳以上のための芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」。今年度は「ノゾエ征爾演劇ワークショップ2019」に取り組んだ。夏目漱石の『吾輩は猫である』を原作としたノゾエのテキストを使って、約2カ月におよぶワークショップを実施。63歳から94歳までの724人が2グループに分かれて成果発表を行った。各々が前回より増えたセリフと格闘した成果が光る。客席後方から、大きく体を使い舞台を指揮するノゾエと参加者が呼応する姿は、ノゾエが掲げるテーマ「金色交響劇団」と呼ぶにふさわしい。カーテンコールでは緊張のとけた参加者の笑顔がはじけ、客席から大きく温かな拍手が起こった。



Photo © 宮川舞子

MUSIC

販売中【3公演セット券】
発売日【Vol.39 1回券】一般 2.1(土) メンバース販売中

2020年度ピアノ・エトワール・シリーズ 3公演セット券
Vol.39 藤田真央
Vol.40 川口成彦 (フォルテピアノ)
Vol.41 ジャン・チャクムル
音楽ホール

【Vol.39 藤田真央】🔗 詳細はP.16-17
 【Vol.40 川口成彦 (フォルテピアノ)】
11.3(火・祝) 15:00
 【曲目】 アルカン：エスキス 作品63 より
 ショパン：24の前奏曲 作品28 ほか

【Vol.41 ジャン・チャクムル】
 2021. **1.30** (土) 15:00
 【曲目】 調整中

チケット(税込)
【3公演セット券】
 一般・メンバーズ 正面席 9,300円
 バルコニー席 7,800円／U-25* (バルコニー席対象) 3,000円
【各回】
 一般 正面席 3,600円 メンバース 正面席 3,300円
 バルコニー席 2,600円／U-25* (バルコニー席対象) 1,000円
 ※ Vol.40 発売日 一般5月30日(土) メンバース5月23日(土)
 Vol.41 発売日 一般8月29日(土) メンバース8月22日(土)

発売日 一般 2.1(土) メンバース 販売中

イレブン・クラシックス
Vol.1 莫トリオ
6.19(金) 11:00 (終了予定12:40) **音楽ホール**
 【出演】
 小川響子 (ヴァイオリン)、伊東 裕 (チェロ)、秋元孝介 (ピアノ)
 林田直樹 (ナビゲート)
 【曲目】 エルガー：愛の挨拶
 ラヴェル：ピアノ三重奏曲 イ短調
 メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲第2番 ハ短調 作品66
 チケット(税込) 全席指定 2,000円

発売日【2公演セット券】【Vol.4 1回券】 一般 2.1(土) メンバース 販売中

2020年度大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
音楽ホール

【Vol.4】 バッハの生きた時代と“平均律”
7.5 (日) 14:00
 【出演】 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)
 ゲスト：加藤浩子 (音楽評論家)
 【曲目】 J. S. バッハ：《平均律クラヴィア曲集第2巻》より
 第1番～第6番

【Vol.5】 フーガの身体性
 2021. **2.14** (日) 14:00
 【出演】 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)
 ゲスト：小尻健太 (ダンサー、振付家)
 【曲目】 J. S. バッハ：《平均律クラヴィア曲集第2巻》より
 第7番～第12番

チケット(税込)
【2公演セット券】 全席指定 一般・メンバーズ 4,000円
【Vols.4-5】 各回 全席指定 一般・メンバーズ 2,200円
 ※ Vol.5 発売日 一般7月4日(土) メンバース6月27日(土)

発売日 一般 2.16(日) メンバース 2.15(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第43回
二期会 富平安希子(ソプラノ) & 金山京介(テノール)
6.5(金) 12:10 (終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
 【出演】 富平安希子 (ソプラノ)、金山京介 (テノール)、
 木村裕平 (ピアノ)
 【曲目】 ブッチーニ：歌劇《ラ・ボエーム》より
 アリア〈冷たい手を〉、〈私の名はミミ〉、〈ああ、麗しき乙女〉
 山田耕筈：この道、鐘がなります
 中田喜直：夏の思い出 ほか
 チケット(税込) 全席指定 1,000円

チケット購入方法
インターネット
 SAF オンラインチケット 埼玉県芸術文化振興財団 オンラインチケット  【PC・携帯共通】 https://www.ticket.ne.jp/saf/
メンバーズ 登録のご住所へ無料配送 一般 【クレジットカード決済】 または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券
※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
電話予約

チケットセンター 0570-064-939
10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
 ※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

メンバーズ	登録のご住所へ無料配送
一般	【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券 または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券
※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。 ※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代のほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。	
窓口販売	

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口 (10:00～19:00)
で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます (メンバーズは登録のご住所への配送となります)。
 ※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ	【口座引落】	その場で チケットを お渡しします。 ※手数料は かかりません。
一般	【現金】または 【クレジットカード決済】	

チケット不正転売防止について
◎当財団主催公演チケットは、財団の同意なく有償で譲渡することを禁止いたします。 ◎当財団が直接販売する主催公演のチケットは、購入者の氏名及び連絡先を確認した上で販売いたしております。

【参加者募集】
彩の国さいたま芸術劇場
バリアフリー・セミナー Vol.1
×
さいたま舞台技術フォーラム2020
テーマ：劇場のバリアフリー〈ハード編〉
～あらゆる人が集う劇場であるために

いよいよオリンピック・イヤー。障がい者アスリートが脚光を浴び、多様な人々が共存する社会への関心が高まるなか、あらゆる人が集う劇場であるためには、さまざまな観点からのバリアフリー化が不可欠です。今回のセミナーでは、劇場におけるバリアフリーの基礎知識から、施設のバリアフリー化、鑑賞サポート支援における舞台技術の役割について考えます。

【日時】 3月19日(木) 13:00～17:00
 【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
 ※入場無料。要申込。詳細は、財団ホームページをご確認ください。
 【お問合わせ】 彩の国さいたま芸術劇場 048-858-5505

『朝のライラック』が第12回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞しました！

さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3『朝のライラック』の上演において、ガンナーム・ガンナーム氏(演出家・劇作家・俳優)のアラブ語戯曲の翻訳を手掛けた渡辺真帆氏が「第12回小田島雄志・翻訳戯曲賞」を受賞しました。



Photo ©宮川舞子

【受講者募集】
彩の国シェイクスピア講座Vol.4
『ジョン王』徹底勉強会
コーディネーター：河合祥一郎

シェイクスピアの作品をさまざまな角度から掘り下げ、新しい魅力を発見する『彩の国シェイクスピア講座』。Vol.4では今年6月に開幕する『ジョン王』を取り上げます！ぜひご参加ください。

《第1回》4月12日(日) 14:00～16:00
『ジョン王』の面白さはどこにあるか
 講師：河合祥一郎(かわいしゅういちろう／東京大学教授)

《第2回》4月25日(土) 14:00～16:00
シェイクスピア作品に登場する子供たち～『ジョン王』のアーサーと私生児を中心に～
 講師：米谷郁子(こめたにいくこ／清泉女子大学文学部准教授)

《第3回》5月10日(日) 14:00～16:00
なぜ私たちは『ジョン王』を見たことないのだろう?～受容、人気、不人気
 講師：北村紗衣(きたむら・さえ／武蔵大学人文学部英語英米文化学科准教授)

《第4回》5月23日(土) 14:00～16:00
『ジョン王』翻訳ごぼれ話
 講師：松岡和子(まつおか・かずこ／翻訳家)
 進行：河合祥一郎(東京大学教授)

発売日【通し券】一般 3.8(日) メンバース 3.7(土)

彩の国シェイクスピア講座Vol.4
『ジョン王』徹底勉強会
 《第1回》4.12(日)《第2回》4.25(土)
 《第3回》5.10(日)《第4回》5.23(土)
 [時間] 14:00～16:00
 [会場] 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
 チケット【参加費】(税込) 全席自由
 一般・メンバーズ 通し券 3,800円、1回券 1,200円
 U-25* 通し券 1,900円、1回券 600円
 ※1回券は通し券に残席があった場合のみ、3月21日(土)から販売いたします(一般・メンバーズとも)。
 ※開場時間(各回 13:30)より先着順のご入場となります。

〈さいたま国際芸術祭2020〉開催！

4年前にさいたま市で初開催された国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」の成功を受け、今年2回目の開催が決定。多彩なプログラムの中には、「世界ゴールド祭2018」でも話題を呼んだ『よみちにひはくれない』の新作、大宮バージョンも！他にも「さいたま国際芸術祭2020」と彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館が連携して、パフォーマンスや美術展示など、さまざまな作品が登場予定です。

発売日 一般 2.11(火・祝)

さいたまゴールド・シアター × 菅原直樹
 徘徊演劇
『よみちにひはくれない』大宮バージョン
4.10(金)～12(日)、17(金)～19(日)〈全6回〉
 各回 16:00開演
 [会場] さいたま市(大宮)市街地
 [作・演出] 菅原直樹 (OiBokkeShi 主宰・俳優・介護福祉士)
 [出演] さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター ほか
 [制作・舞台技術] 彩の国さいたま芸術劇場
 チケット(税込) 一般 2,500円、18歳以下(限定枚数) 1,000円
 [主催] さいたま国際芸術祭実行委員会
 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団



世界ゴールド祭2018『よみちにひはくれない 浦和バージョン』
 Photo ©宮川舞子

※彩の国さいたま芸術劇場チケットセンターでは〈さいたま国際芸術祭2020〉の下記公演チケットもお取り扱いがございます。
 詳細は財団ホームページをご確認ください。
 菅原直樹：在宅演劇『あほざら』／マーク・テ：『仮構の歴史』／快快 (FAIFAI)：『銀河鉄道の夜』(仮)
 ※〈さいたま国際芸術祭2020〉の詳細は公式ホームページ <https://art-saitama.jp/> をご覧ください。

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。
 こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2020.1.15現在／一部未掲載)

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
 ㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／㈱タムロン／㈱十万石ふくさや／森平舞台機構㈱／東芝ライテック㈱／埼玉トヨタ自動車㈱
 武蔵野銀行／ロイヤルバインズホテル浦和／アルピーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル／㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動産㈱
 ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国S Pグループ／㈱プラネット／㈱デサン／セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱
 ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通／サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱
 旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房／㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱総合舞台
 (一財)さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／オーガスアリーナ㈱／イープラス／(医)樺会 林整形外科／埼玉県整形外科医会
 (医)山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社／ショッパー／㈱松尾楽器商会／日本大学芸術学部／㈱ホンダカーズ埼玉
 ㈱杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄／㈱ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部
 ㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくら Music Office／クワバラ・パンぶキン／東和アークス㈱／テレビ埼玉／日本ビストンリング㈱
 金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／㈱コマーム／㈱原一探偵事務所／川口信用金庫／青木信用金庫
 ㈱和幸楽器／大栄不動産㈱／相川宗一／㈱ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／AGS㈱／ウォータースタンド㈱
 ㈱ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会／むさし証券／㈱セレモニ－／三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱／㈱積田電業社
 ボートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／トヨタカローラ埼玉㈱／放送大学埼玉学習センター／GARO DAYHAPPY／㈱有村紙工
 (医)たかだクリニック／SMBC日興証券㈱／㈱アステック／㈱ジェイコムさいたま／㈱ヤナセ／㈱博愛社／トヨタカローラ新埼玉㈱／浦和興産㈱
 ㈱村松フルート製作所／東武商事㈱／東和銀行／㈱喜多山製菓
 お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

埼玉会館開催	※入場無料	市民プロジェクト🔗 Sightama
--------	-------	--------------------

どこかで会いましたね2020
 ◆絵画、立体、インスタレーション
 [会期] 3月27日(金)～ 4月5日(日) 10:00～18:00
 ※ 4/5(日)は17:00まで
 [会場] 第3展示室

埼玉会館エスプラナード展2020
 [会期] 3月20日(金・祝)～ 5月17日(日) 終日開催
 ◆美術展示(本多真理子、南 優、山本鍾互、村山之都)

◆パフォーマンス(M2(一条&松下))
 ※ 3/29(日)、4/26(日) 14:00～のみ開催
 [会場] エスプラナード

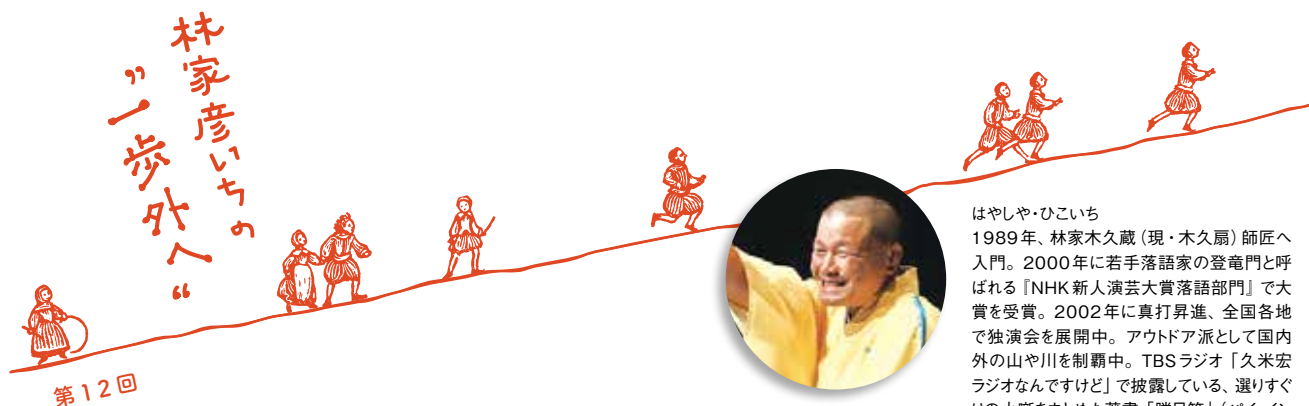
◆美術展示(田中千鶴子、八木ヨシオ)
 [会場] 広場

◆「エスプラナード展」トークイベント
 「場と表現」をトークテーマに
 出品作家とゲストを招いて開催します！
 [日時] 3月31日(火) 18:00 ～ 20:00 (予定)
 [会場] 小ホール

◆「エスプラナード展の作家たち展」
 [会期] 3月27日(金)～4月1日(水) 10:00～18:00
 ※4/1(水)は16:00まで
 [会場] 第1展示室

彩の国さいたま芸術劇場開催	連携プロジェクト🔗 Sightama
---------------	--------------------

光の庭プロムナードコンサート
 [会期] 3月21日(土) 14:00開演 🔗 詳細はP.20
 ※ 4/18(土)、5/16(土)あり ※入場無料
 [会場] 情報プラザ



はやしや・ひこいち
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。TBSラジオ「久米宏ラジオなんですけど」で披露している、選りすぐりの小噺をまとめた著書「瞳目笑」（パイ インターナショナル）が発売中。

年の瀬の末廣亭を『芝浜』でやる？

文と写真●林家彦いち

昨年12月下席（21日～30日）夜の部の主任を務めた。暮れの主任は初めてである。伝統と歴史が刻まれている新宿の末廣亭。大概年末の寄席は、年の瀬の定番である三遊亭圓朝作の古典『芝浜』がかけられている。私はもちろん古典も大好きなのでやってはいるが、主に創作落語を中心に喋っている。どうする!? 俺。

21日、初日の幕が開いた。自作『長島の満月』から始まった。ノリのいいお客様に救われ離陸した感じ。無事に千種楽までバランス取りつつ飛び続けなければならない。仲入り（休憩前の出番）に創作カリスマ三遊亭円丈師匠が出演していることもあり、やりやすい。もっともお客様は原則、創作や古典なのかを気にするのではない。面白いかどうか、興味深いかだけだと思う。それに圓朝師匠も創作落語の噺家だったのだ。

25日、中日（なかび）を迎えた。クリスマスだ。賑わう東京で「今日は中日だね」と言っているのは寄席だけかも。この日やった自作『神々の唄』は噺の中に神社八幡様の境内が出てくるのだが、それを教会に変えてクリスマスバージョンでやった。最後はイエス様の一言でお開き。クリスマスの夜



令和最初の暮れにのぼりが揺れた。うわぁどうする!?

に寄席に大勢のお客様はありがたいことである。無事フライトは続けられているようだ。

年末は、ふらっとくる方が多いのも特徴。初めて寄席に入ったお客様、常連さん、マニアックな方……散らばっているお客様がだんだん一つになっていく。まさに一期一会。

そしていよいよ、千種楽。普段は閉まっている2階席も解放し、大入り満員。年末だからか、お客席からも高揚感を感じる。自作『掛け声指南』の年末特別編をかけた。ボクシングのセコンドを務めるムアンチャ

イというタイ人が頑張る噺。舞台は新宿。彼がこの街でいろんな言葉を身につけてゆく物語だ。場面は大晦日。タイトルマッチの大舞台で、セコンドに任命された彼。倒れそうになるジムのエースボクサーに「オマエが働かないと釜の蓋がアカナインダ!」と『芝浜』の冒頭のセリフを投げかける。最後には「おい! またチャンピオンが夢になるとイケナイ!」と『芝浜』(?)のサゲを叫ぶ。

大入りの末廣亭のお客席がなんだか大いに盛り上がった夜となった。着替えて、後片付けをしている木戸の従業員の方々へご挨拶。「最後ムアンチャイを応援しちゃいました」と言っていた。い。

そこへ現れた末廣亭の会長が笑顔で「あの噺、『芝浜』でいいんだよね」と言った。なんとか着地して令和元年お開き。さて2020はどうするどうなる!?



演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF
埼玉会館 @saitamakaikan



彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram 埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第85号(2020年2月-3月)

2020年2月1日発行(隔月1日発行)

発行人: 竹内文則

発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500